

## 刊行に寄せて

「札幌市学校教育の重点」では、子どもが入学・進学する際に、新しい環境での生活や学習に円滑に移行・接続できるよう、校種間で十分連携を図る必要があるとしています。また、子どもへの指導は、各学校段階内において完結するものではないという観点から、校種間連携をより一層推進することにより、異なる学校段階にわたって教育を見通し、円滑な各学校種間の連続・接続に向けた取組を推進することとしております。

また、新しい「幼稚園教育要領」（平成 30 年度から実施）では、5 歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿を明確にし、幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう工夫・改善することが求められております。さらに、この幼稚園教育要領の改訂内容は「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」との整合性を図り、幼児教育全体としての質を確保・向上することとされております。

さらに、新しい「小学校学習指導要領」（平成 32 年度から実施）では、小学校の学びはゼロからスタートするのではなく、幼児期の学びの上に育まれるものであることから、生活科を中心とした「スタートカリキュラム」等を通じて、幼保小連携を図っていくことが重要であるとされております。

このように幼児教育と小学校教育の接続の重要性が高まってきている中、札幌市教育委員会では、平成 25 年度から、子どもの発達や学びの連続性を保障し、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続するために「幼保小連携推進協議会」を設置して、各園・学校の連携を図っています。人口 195 万人を超える札幌市には、約 600 の公私の幼稚園・保育所・認定こども園・小学校が混在する中で、幼保小の教諭等が一同に会して、合同の研修会、情報・実践交流、就学に際しての支援内容の引継など、教育内容や指導方法の相互理解を図り、連携を進めおりますが、これは全国的に見ても先進的な取組です。

実践事例集の作成は 3 カ年計画で進め、まとめとなる今年度も多くの園、学校に交流の取組を寄せていただき、刊行することができました。また、今年度の「幼保小連携モデル事業」は、川北小学校と清田南小学校において実施され、様々な事例を通して実践研究がまとめられました。

今後もこの実践事例集を活用して、幼保小の連携・接続がさらに推進されることを願うとともに、各園・学校の特色を生かした保育・教育がより質の高いものとなることを期待しております。

平成 29 年 3 月

札幌市教育委員会

児童生徒担当部長 和田 悦明

# 幼保小連携推進協議会の設置について

## ● 目的 ●

子どもの発達や学びの連続性を保障するために、幼児期の教育(幼稚園・保育所・認定こども園における教育)と児童期の教育(小学校における教育)を円滑に接続する。

## ● 設置の概要 ●

- 全市のことを協議 「札幌市幼保小連携推進協議会」  
開催回数・・・年1回程度開催
- 各区のことを協議 「区幼保小連携推進協議会」  
開催回数・・・年3回程度開催

## ● イメージ図 ●

## 更なる継続的な幼保小の連携のために

各区研究実践園を中心に幼保小の連携を推進

より**組織的、機能的、継続的**に体制整備を行う

## 幼保小連携推進協議会

各区に協議会を設置し、幼保小の管理者・教職員の定期的な会を実施

札幌市幼保小連携推進協議会（年1回開催）

区幼保小連携推進協議会（年3回程度開催）

- 1回目 幼保小の管理者・教職員の顔合わせ  
交流計画
- 2回目 全体研修（講演会等）  
実践交流
- 3回目 区幼保小連絡会  
次年度へ向けて（反省・計画等）

## 考えられるメリット・効果

子どもの  
入学前後の情報交換

子どもの  
交流活動の充実

幼保小の一貫性  
のある教育活動

教職員の相互理解

